

## 令和元（2019）年度 斜里町・羅臼町のヒグマ目撃・対応状況等について

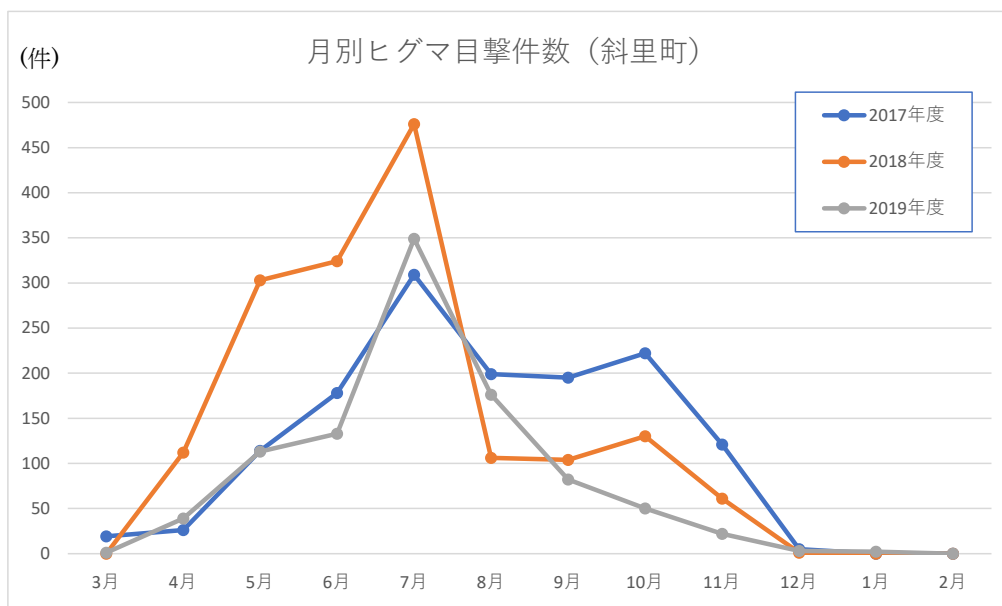
## 1. 2019年度（クマ年度）のヒグマ目撃件数など（2019年3月1日～2月29日）

	斜里町	羅臼町	合計
目撃件数	970（1617）件	339（285）件	1309（1902）件
対応件数	519（1050）件	268（215）件	787（1265）件
有害駆除頭数	26（11）頭	13（12）頭	39（23）頭

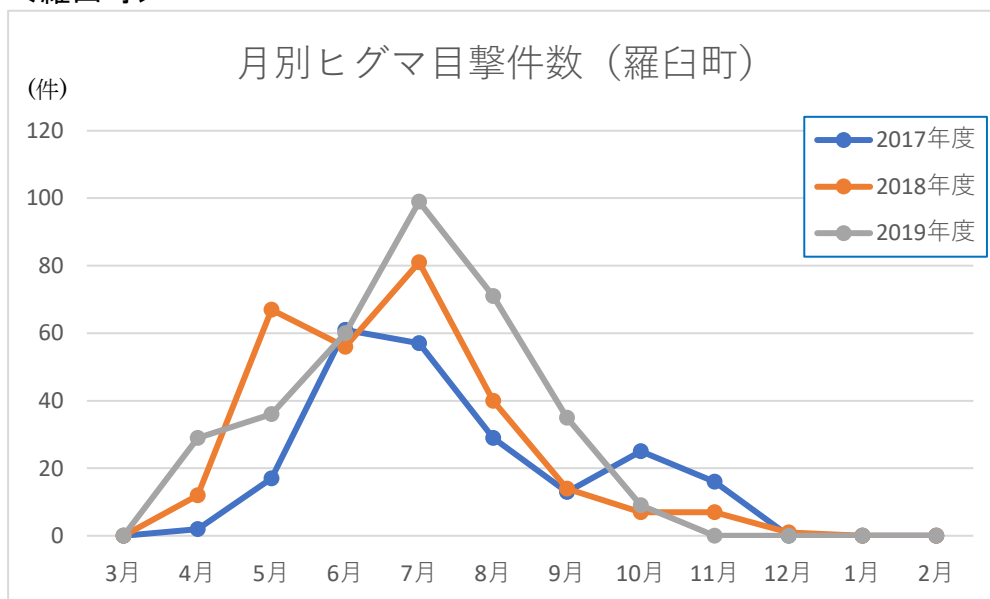
※（）内は前年度の数字。

## 2. 2017-2019年度のヒグマ目撃件数推移（月別）

## &lt;斜里町&gt;

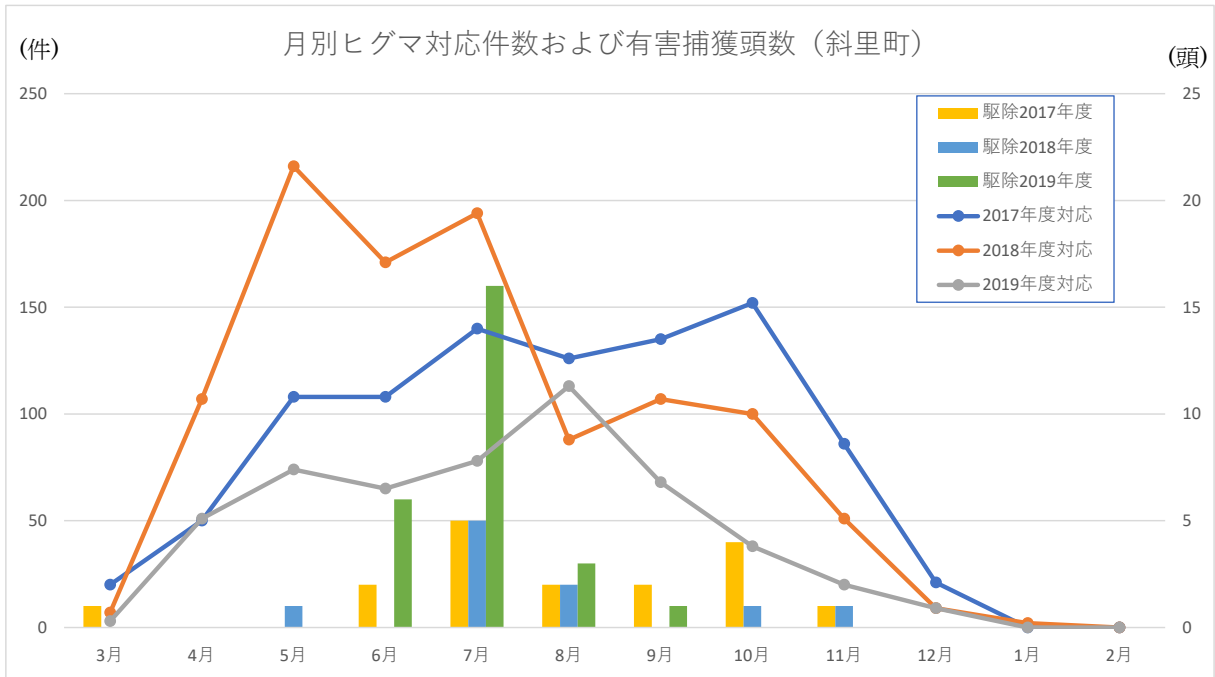


## &lt;羅臼町&gt;

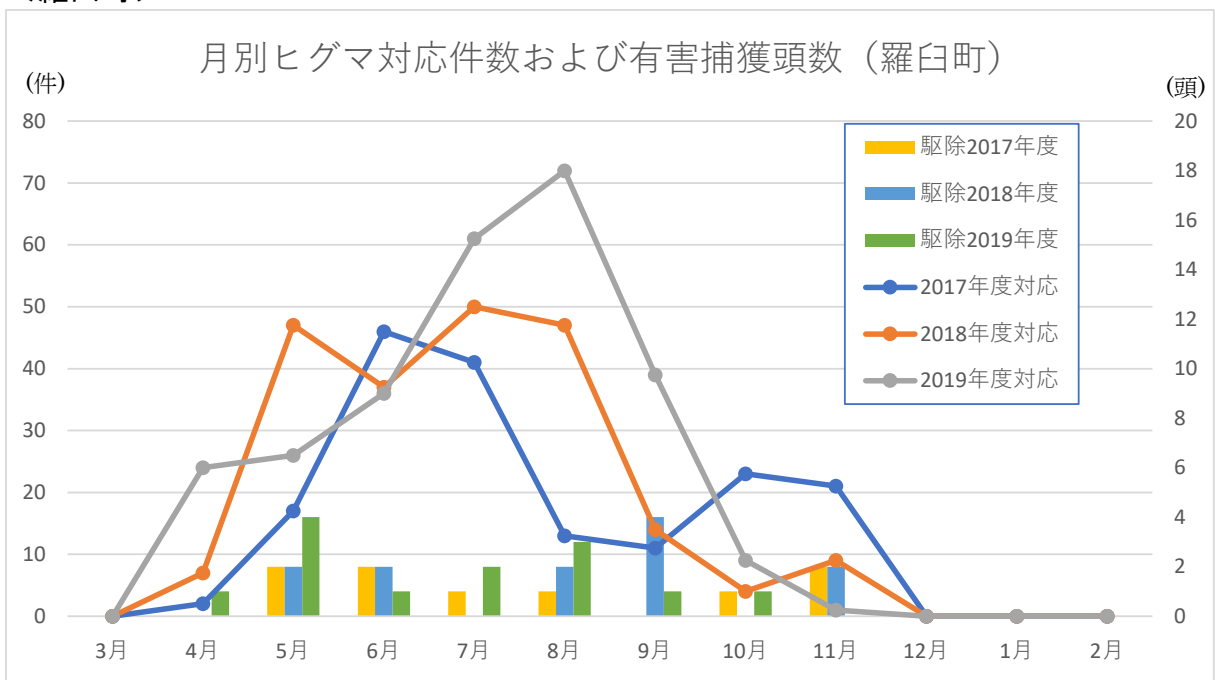


3. 2017-2019年度のヒグマ対策活動件数（対応件数：折れ線グラフ）および有害捕獲（駆除）頭数（縦棒グラフ）の推移（月別）

<斜里町>



<羅臼町>



## 4. 2019年度のトピック

### <斜里町>

① **情報発信強化** ビジター等への普及啓発・情報発信を強化するため、既存のフェイスブック（BearSafetyShiretoko）とホームページ（知床のひぐま）に続いて、ツイッター（Bear Safety Shiretoko）とインスタグラム（bear\_safety\_shiretoko）による発信を4月より開始しました。ビジターが知床に到着する前に、正しい知識を得ることができる状態を目指しています。

② **ヒグマの「制度慣れ」進行中** 知床五湖の地上遊歩道における「ヒグマ活動期」（登録引率者ガイドの同行必須期間：5/10～7/31）のヒグマ遭遇件数が過去最多（186件）を記録した一方、ツアー中止は25件（13.4%）のみでした。ガイドツアーを忌避しないヒグマ（複数）が、ツアーと次々遭遇する状況が昨年に引き続き発生したためです。ヒグマは人を見ても逃げない方向で学習強化されるため、「植生保護期」に8/1に切り替わった途端に、遊歩道閉鎖が続きました。

**課題：**ヒグマの状態が変化し、五湖利用調整地区の制度が設計当初のままでは通用しなくなりつつあります。五湖のみならず、国立公園内全体でヒグマに対する接し方を再検討する必要があります。

また、「ヒグマ活動期」に親子グマと近距離遭遇したガイドツアーがツアー継続を宣言し、後続ツアーが連続遭遇する状況には、ヒグマの威嚇突進・突発的な攻撃など安全管理上の懸念があります。さらに管理者側にとっては、制度や安全性に関する対外的な説明が困難となっています。

③ **いつまでも解決しないクマ渋滞問題** クマ渋滞（Bear jam）や降車してヒグマに接近し撮影する事例（野生動物へのハラスメント）が、国立公園内（主に幌別～岩尾別～五湖手前）で2019年も相変わらず発生しました。9月の連休には現場の混乱状況が首都圏のTVキー局にとりあげられ、何度か全国放送されました。

**課題：**多くのTV局はクマ渋滞問題を矮小化・単純化して単なる観光客のモラル・マナーの問題として伝えていましたが、この問題は、根本的には公園利用者のアクセス手段をデザインし直さないと永遠に解決しない問題です。ヒグマ目撃時のビジターの降車や接近撮影を、法や条例で強制力を伴って規制することは現状では困難です。そのため、クマ渋滞による交通障害・交通事故の発生防止、ヒグマの突発的な突進・攻撃による人身事故の発生防止、および、過度の人なれ進行等によるヒグマの駆除数増加抑制の3点の理由から、ウトロ市街～幌別園地～五湖のシャトルバスシステムへの切り替えが必要です。そもそも5～10月の週末や連休、お盆時期などに、知床国立公園の受け入れ能力（道路幅、各登山口・各施設の駐車場の収容能力等含む）を超える数のマイカー・レンタカーの入込がある状態が長年放置されていることも元凶です。交通弱者である外国人旅行者にも優しい国立公園・世界遺産を目指すのであれば、仮にクマ渋滞の問題が無くても、新しいシャトルバスシステムの整備は喫緊の課題と言えます。



写真1. 岩尾別橋のクマ渋滞

- ④ **1月中旬にヒグマ目撃** 2020年1月14日と同1月17日に、国立公園内の岩尾別川周辺や知床五湖園地で雪景色の中、ヒグマが目撃されました。斜里町ウトロ付近では、年末年始頃にヒグマが目撃される事例は時々ありますが、さすがに1月中旬の目撃は稀です。秋のミズナラ堅果（ドングリ）の豊作と初冬の少ない積雪量の相乗効果により、ヒグマが雪を少し掘れば簡単にドングリを採食できる状況となっていたため、一部のヒグマの冬眠入りが遅れていたと推測されます。なお、ヒグマやツキノワグマでは一般的に、晩秋の食物が豊富なら冬眠入りが遅れ、逆に同時期の食物が少なければ早めに冬眠入りすることが知られています。今回の目撃も珍しい事例ではありますが、特段驚くべき異常事態ではありません。

#### <羅臼町>

- ① **飼い犬被害が連続発生** 外飼いでつながれていた犬が、連続してヒグマに食害されました（7/10 海岸町，7/27 峯浜町，8/3 春日町）。2件目の現場確認中には4名がヒグマの威嚇突進を受け、海岸の石浜で転倒した知床財団職員1名が骨折等の重傷を負いました。現場付近で回収したクマ糞のDNA分析（北大実施）結果より、オス成獣の同一個体（RT）が、前年8月の犬2頭の同時食害も含む4件すべての犬食害の加害個体と推測されています。この加害個体（RT）は未捕獲のまま冬を迎えました。なお、RTは2018年の食害の際には、犬食害後まもなく斜里町側の国立公園内へ移動したことが、公園内の体毛のDNA分析により判明しています。オス成獣は広域を移動するため、今後は羅臼だけでなく斜里や標津でも犬が食害がされる可能性があります。

**課題：**各事例とも共通して住宅脇の深いヤブがヒグマの侵入経路・犬への接近経路となっていたため、草刈りが有効な対策と考えられます。しかし町内全域でヤブの草刈り活動を確実に実施するためには、住民自身が危機感を持って地域ぐるみの活動

にする必要があります。また後述②③の事例も含めて、全町の大半を占める国有林、国立公園特別保護地区および国指定鳥獣保護区などの保護区から隣接する住宅地周辺へ移動・分散してくるヒグマが多くの問題を起こしており、自治体が担っている住宅地のヒグマ対策に対する、保護区の管理機関による責任ある関与と積極的支援が求められています。

- ② **住宅地で生ゴミ・干し魚・水産加工残渣の食害と建物被害が相変わらず発生** 夜間に生ゴミや魚を屋外に放置したためヒグマに荒らされる事例が今年もまた発生しました(9/4, 5, 10)。また水産加工場や残渣運搬会社の施設・トラックがヒグマに破壊される被害も発生しました(7/19, 8/8)。ヒグマが住宅地の海岸で何度も目撃されたため調査したところ、家庭から排出された疑いが濃厚な不法投棄の生ゴミが、ヒグマの滞留場所で発見されました(9/30)。10/25には海岸で生ゴミを食べていたヒグマのメス成獣が駆除されました。

**課題：**人為的食物に餌付いた、通常より1～2段階危険なヒグマ(人身事故を発生させやすいヒグマ)を住民自らが繰り返し作り出していることへの地域の危機感は、重大事件が毎年連続発生しているにも関わらず低調です。一方、住宅地周辺でのヒグマ捕獲作業の総合的なリスク等は年々上昇しており、近い将来、重大な事件・事故が起こっても、従来のように問題個体の迅速な捕獲によって事態を早期に鎮静化することが困難になる恐れが出てきています。

- ③ **動物死体がヒグマを強力に誘引** 5月以降、羅臼町内各地でトド等の海生哺乳類の死体漂着が例年以上に多発し、住宅地周辺での誘引物除去作業がたびたび発生しました。知床岬への海岸線トレッキングコースにも数頭分のトド死体が漂着し(7月下旬～8月中旬)、死体に執着しているヒグマからトレッカーが威嚇突進(ブラフチャージ)される事例も発生しました。それらを受けて人身事故防止のため、関係機関連名のチラシを相泊の入林箱に設置しました。

知床横断道路(知床峠～羅臼湖入口間)でもエゾシカオス成獣の土饅頭状態の死体を緊急回収しました(8/9)。なお、死体回収作業の前後の時間帯に計2回、ヒグマが一般車両のボディーを前肢で叩いていたことが発覚したため、SNS・看板等で注意喚起しました。幸い当該ヒグマはその後大きな問題を起こしていませんが、横断道路は自転車やバイクが多数通過するため、人身事故に至らなかったのは単なる偶然に過ぎなかった可能性もあります。

**課題：**現在の知床には、人の側の行動をコントロールできるような国立公園利用調整システムが、大半のエリアにおいて存在しません。そのため、たとえ人命を守るためであっても、緊急時に国立公園利用者の行動を制限することができない点が大きな課題となっています。



写真2. 知床峠におけるエゾシカ死体回収時に威嚇してきたヒグマ



知床のひぐま (HP)



BearSafetyShiretoko  
(Facebook)



Bear Safety Shiretoko  
(Twitter)



bear\_safety\_shiretoko  
(Instagram)

(データとりまとめ：知床財団)